

令和7年度第2回

久留米市文化財保存活用地域計画協議会 会議録

1. 開催日時：令和8年2月19日（木） 14：00～15：30
2. 会 場：えーるピア301・302会議室
3. 参加委員：赤司、矢次、吉田、松岡、段上、永松、古賀、深山、岡部
4. 事務局：廣松、井上、白木、丸林、小澤、塚本、西本、小川
5. 議 事
 - (1) 開会あいさつ（廣松部長）
 - (2) 協議 久留米市文化財保存活用地域計画の中間見直しについて
配布資料に基づき、事務局から説明

委員

資料の84ページから108ページまでが協議対象資料という認識でよろしいか

事務局

お見込みのとおりである。

委員

アクションプランの見直しについてではなく、要は実施期間を見直したということか。

事務局

実施期間の見直しである。

委員

実施期間の見直しで、人材不足への対応や情報発信をあえて重点事項を掲げてあるが、地域計画の84ページ以降に反映しているのか。子供向けのワークショップの開催等の協議資料の重点事項について、答申案の中に赤字や網掛け、太字にするなど、わかりやすく記載してほしい。

事務局

もともと取り組みとして掲げているもので、追加ではない。ご指摘の点、確かにわかりづらいので、対応を検討する。

委員

子ども向けワークショップ等は参加者が非常に少ない。丁寧な準備資料の提供等が必要になる。企画自体はすばらしい。

事務局

ここ数年は出前講座制度を利用して、依頼を受けて出向いていたが、来年度以降、夏休み等に、文化財保護課主催で積極的に呼びかけていこうと考えている。

委員

前回資料はA B C評価があったので分かりやすかったが、今回の赤い線だけでは、これに力を入れていくというようなことが分かりづらいので、再度検討してほしい。協議資料で、前回の協議内容を反映いただいたのはありがたい。

委員

実施期間の変更で、期間を伸ばした理由が分からない。実際、これだけの取り組みには、文化財保護課のマンパワーが足りないという非常に大きな問題があると思う。専門職員が増えたのであれば教えてほしい。

事務局

専門職員は、増えていない。文化財の分野も幅広いので、幅広い知見を持った職員が必要であるが、一方で人口減少が進んでいく中で職員を増やすのは難しい。維持していくのが精一杯である。より少ない人員で、より多くの成果を上げていくために、市民や団体との協働が必要。これまでも取り組んできたが、今後さらに進めていかなければならない。そのためのツールとして、筑後川遺産制度をもっと広めていかなければならないと考えている。

委員

市の人口が減少するので職員数を増やせないという考え方は分かるが、現状の職員でこれだけの取り組みを行うのは難しい。その中で、何とかやっていこうと考えるのもよくわかるが、ある程度の実行力を伴った人材が重要。退職する方を補うのは、ものすごく難しい。実際に、20-30年経験を積んだ方が退職すると、穴があいてしまうことがよくある。多くの事業遂行には、マンパワーをどう向上させるのか気になる。多様な取り組みには非常に敬服するが、やり遂げるのは大変である。少人数でよく頑張っている。

委員

段上委員のご指摘は、とても大事な視点である。この協議会の中でも人材不足の指摘をしてきたが、それは地域の人材不足ではなく、文化財保護課の体制が不十分であるという意味で

ある。この計画が絵に書いた餅にならないように、計画が先延ばしにならないようにしなければならぬ。

委員

見直しについては、1つ1つの項目に理由があるはずであり、実施期間の見直しに至った理由が、マンパワーが不足して、計画通りに行かなかったからではないかと思ってしまう。そこが心配で、計画期間を伸ばすのを否定する気はないが、実行可能な計画にしないと行かない。現時点で諦めてやらないとはできないが、計画期間の最終年度には評価をしないと行かない。事務局で評価されたものを協議会で審議するが、そこで実行不可能なものが出てくる可能性は十分ある。久留米市の文化財を活用して、すべて実行できたらと期待するが、実行できる体制や協働を考えていかないと行かない。

事務局

人材不足や情報発信等は大きな課題であると認識しているので、そういった項目については、令和8年度以降、速やかに着手する。新たな組織作りや制度作りは時間がかかるが、しっかり検討する。検討した結果、やったほうがいいもの、やれないものも出てくる可能性がある。優先順位をつけて、優先度の高いものから着手する。やむなく、先送りしなければならぬようなものも出てくると思うが、委員の皆様と同じ方向を向いて取り組んでいきたい。環境の変化で、できなくなるのも否定できない。答申については、会長とご相談させていただきたい。

委員

ここは議会ではないので、考えが変わることは問題ない。マンパワーの話が出たが、協議会で、職員のマンパワーについて、増強したほうがいいという話が出たとは書いていただいた方がいいと思う。人事当局と話す際に、こういった意見があるという話もできる。議事録や答申に書いて、職員増員する努力が必要。

委員

人材だけでなく、情報発信の強化として電子博物館を構築するとあるが、予算的に半端なものでは構築できないので、電子博物館構築を絵に描いた餅にしないために、それなりの予算確保も必要である。

事務局

正直なところ、人員や予算を増やすのは簡単ではない。今回の答申の附帯意見として、赤司会長と相談した上で、専門職の人材の確保や予算の確保を記載するようにさせていただきたいと考えている。

委員

優先的に取り組む事項のところで、差し当たりという言葉が気になる。やりやすいものから、やるという風に聞こえる。喫緊な課題として必要ならば、そういう言葉にしなければならない。2 ページ目の情報発信で、新たな歴史ファンだけでなく、地域の関心を持っている人ではと思った。情報発信イベントの実施の展示について、遺物だけでなく、菊竹清訓さんの梅林寺ティーハウスが国登録文化財等、菊竹清訓さんの作品も残っているから、建築もぜひ情報発信できたらいいなと思う。

委員

重要な指摘。差し当たりじゃなくて差し迫った限りと書きたかったのではないかと思う。また、歴史ファンという言葉も気をつけなければならない。文化財の利用は歴史ファンだけではない。とにかく関心を持ってもらうということが大事である。言葉の使い方を間違えなないようにすること。松岡委員の展示に関する指摘については、考古学の人間が多いため、考古に関する展示が多くなってしまうので、建築についてもぜひ情報発信してほしい。

委員

答申案の期間を見直した赤線の引き方が分かりづらいので改善してほしい。

事務局

改善する。

委員

年度ごとの事業計画も別途作成すべきである。そうしないと、課題が解決しない。

委員

協議会での意見は、地域計画を推進するためにある。協議会委員は応援団であるので、ぜひご相談いただければと思う。

【事務局より筑後川遺産第3号「櫛の道」について報告】

委員

毎年3月のつばきフェアは市が主催しているのか。

事務局

地域の方でやっている

委員

今年はハゼ祭りと校区の文化祭が重なってしまったので、来年度は、ハゼ祭り実行委員会と連絡を取り、イベントが重ならないようにしたい。地元の関係者との繋がりがとてもよくなった。

委員

これだけの人数を集めるイベントは大変であり、高校生のボランティア参加等、若い世代を巻き込んでいるのも事業として素晴らしい。知識を広げる良い機会となるので、こういう機会が増えればいいと思う。関係者へのアンケートは、一般の方にも意見聴取などされているのか。していない場合は、するとより良くなるのでは。イベントのときに、取り組みをPRするのも大切。

事務局

関係者へのアンケートのみである。実施主体は団体だが、イベントにおいても、筑後川遺産制度をPRしていただいている。

委員

久留米市の広報紙をジャックするぐらい、とにかくPRすることが大事。

委員

準備等大変だったと思う。団体はイベント以外の時期はどうしているのか。

事務局

確かに櫨のイメージとしては、秋の紅葉であるが、いろんな景観があるし、いろんな見どころがある。筑後川遺産では、櫨並木だけでなく、櫨の歴史や研究についても地道な活動をして、イベント時に情報発信をしていく。

委員

櫨の紅葉の時期以外の活動としては、昨年7月の夏休みに、くるめっこ館で櫨の実から取れる蠟を使って、みんなでキャンドルを作ろうというワークショップがあった。本日の会議で出た、子ども向けのワークショップに力を入れるという話だが、市主催のイベントも大切だが、筑後川遺産の団体など歴史遺産に関わる民間団体で行うワークショップに関する情報発信もお願いしたい。

委員

筑後川遺産の構成遺産にある小郡市やうきは市へも広報しているのか。

事務局

構成遺産のある自治体へピンポイントでの広報はできていない。

委員

6月頃の緑の櫨並木もとてもきれい。秋の紅葉だけじゃなくて、夏の緑も、いろんな形で取り上げてほしい。

委員

紅葉が良くないときも新緑がきれい。葉が落ちた後も、櫨の実がいっぱいだと壮大である。